

神戸市の中小企業向けイノベーション創出支援プログラム

都市型創造産業の振興に係るデザイン経営の推進

神戸市経済観光局経済政策課

神戸市では、デザインや広告、ITといった情報サービスなど、既存産業の高付加価値化やイノベーションを誘発することができる産業分野を「都市型創造産業」と定義し、その振興に取り組んでいます。具体的には、市内中小企業と都市型創造産業に係るクリエイティブ人材の協業を促し、新たな商品・サービス開発、持続性のある新規事業を生み出すプログラムを実施しています。

1. ミライ経営塾 Wonders (ワンダース)

Wonders (ワンダース)

デザインの力を事業成長や課題解決に活用する「デザイン経営」を軸に中小企業を支援する施策として、令和3年度に開始したプログラムです。参加者は、デザイン経営の考え方について学ぶ「基礎講座」と、各社の事業成長・課題解決に向けたアプローチにメンターが寄り添う「伴走型支援」を組み合わせたプログラムに約半年間を通じて取り組み、「中間報告会」と「最終報告会」でその成果を共有します。

定員は12社、3名のメンターが4社ずつ担当します。課題解決の意思決定のため、経営者を含む

2名で参加していただくことを条件にしています。中小企業の経営者等がすべてのプログラムに参加するのは時間的に大変なことだと思われませんが、実際に試行錯誤することを通じて「デザイン経営」を体得し、自走する勘所をつかんでいきます。

例えば、市内でパン・サンドイッチの製造と複数店舗での販売を展開する株式会社イズスベーカーリーは、販売店ごとにPOPなど販促ツールを作成していたため、統一されたブランドイメージがないことに課題感があり、本プログラムに参加しました。

社長・店長・マネージャー層を中心に対話型研修を実施し、出てきたキーワードの分類・分析によりブランド

カラーを検討

し、ブラン

ドガイドを

制定。今後の「THIS IS ISUZU」の



社内用ブランドガイドを制定。ガイドラインにそってPOPや装飾をすることで売り上げ向上を目指す。

株式会社 イズスベーカーリー



「ほめる」文化の形成
チャレンジ精神が停滞気味な部門へ、価値観の統一とフィードバックの仕組みを提案し推進している

株式会社 小泉ビジネスソリューション



自社の技術を生かし、機械金属工業会の仲間たちと各々の技術の強みを組み合わせ、新商品の試作品を共同制作。

株式会社 神戸熔工

ミライ経営塾 Wonders
取り組み事例

ズ」ブランディングの布石とし、ガイドラインに沿った販促用ツールの店頭展示に漕ぎつけました。今後もガイドラインに沿ってブランディングを強化していく方針です。

多岐にわたる事業を展開するグループ会社各社のコンサルティング・サポート業務等を行う株式会社小泉ビジネスソリューションは、「小さなチャレンジ」を「し続ける」ことができる企業文化を醸成したいというテーマでプログラムに参加しました。

社員が達成感を実感できる組織をデザインするという方針を立て、「ほめる」文化の形成を目標に据えました。プログラムを通じて、その目標に向けた仕組みづくりの着想を得て、今後は実践と

フィードバックを回していく予定です。

複数企業が連携して参加した事例もあります。リサイクル業1社、機械加工業2社、製缶板金業1社の若手経営者4人で構成するものづくりプロジェクトチーム（株式会社神戸熔工チーム）は、鉄スクラップを使ってワクワクするものづくりに挑戦したいと参加しました。「我々の技術を合わせて、どのようなものづくりができるか」という自社起点の発想に、ユーザー目線で魅力あるプロダクトをデザインするという発想が加わったことで新商品の開発構想が具体的に進み、プログラム終了時にはキャンペーン用焚き火台の試作品が完成しました。

令和4年度も、多種多様な業種の中小企業が参加し、「ブランドデザイン」「組織デザイン」「プロダクトデザイン」の3つのテーマに分かれてプログラムにチャレンジしています。

2. プロジェクト・エングローブ

令和3年度よりスタートした中小企業向けイノベーション創出プログラム「プロジェクト・エングローブ」でも、市内企業と多様な経験とスキルを持つクリエイティブ人材がチーム一体となって、「地球にいいビジネス」の創造にチャレンジしています。

未来予測が難しい時代に持続可能なビジネスを展開するためには、業界や業種、都市や国など境界を超えて、多様なステークホルダーとの関係の中で「なぜ今、自分たちがこれをやるのか」とい



プロジェクト・エングローブ セミナーの様子

う社会的存在意義を強く意識し、構想実現に向けてバリューチェインを組み直す必要があると言われています。それは中小企業にとっても例外ではありません。

本プログラムでは、真に持続可能なビジョンと実現力の指標のひとつとして注目されている「ESG〔注〕」を意識したカリキュラムとメンター陣による伴走支援を行っています。

令和3年度は市内企業5社が参加し、本プログラムで生まれた事業構想が、国（中小企業庁）の補助事業である「成長型中小企業等研究開発支援事業」の対象として採択されるといった事例につながっています。令和4年度も6社が参加し、新事業構想の策定に向けてプログラムに取り組んでいるところですよ。

〔注〕環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の英語の頭文字を合わせた言葉で、企業が長期的に成長するには必要不可欠であり、企業を選別する投資家にとっても重要な視点の一つ

3. 公民連携による支援

「ミライ経営塾 Wonders」や「プロジェクト・

エングローブ」で生み出された新たな商品やサービスの出口戦略として、民間企業と連携して、広報・マーケティングの観点から支援をしています。令和3年9月に、アタラシイものや体験の応援購入サービス「Makunake」を展開する株式会社マクアケと「中小企業のイノベーション創出・販路拡大支援に関する事業連携協定」を締結し、本市が実施する各プログラムから生まれた商品・サービスを「Makunake」の神戸特集ページを通じて発信する取り組みを開始しました。さらに令和4年度からは、「Makunake」掲載に必要な新規プロジェクトページ制作費用の一部助成（上限20万円・対象経費の1/2）を実施し、市内中小企業の販促支援を実施しています。

また、令和4年4月にForbes JAPAN SMALL GIANTSと「挑戦する中小企業に対する、支援・情報発信に関する事業連携協定」を締結。新たな事業創造にチャレンジする中小企業を中心に、Forbes JAPANが独自に取材を行い、動画や記事等により市内外へ魅力的なコンテンツとして発信することで、地域産業におけるイノベーション創出と認知向上を促進することを目指しています。このように、市内中小企業を対象に、異業種との共創やデザインの活用を通じた新規事業開発からマーケティング・広報まで、切れ目のないイノベーション創出支援を行うことにより、成功事例を確実に生み出し、ひいては地域産業全体の活性化につながる好循環につなげていきたいと考えています。